

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市大野田児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3	指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 35,911人 (前年度比 104.6%) 平成29年度 34,322人 平成28年度 32,999人 平成27年度 30,364人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 43,478千円 (41,245千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、児童クラブだよりの連絡帳、迎えの際のやりとり、保護者懇談会等を通して子どもの遊びや生活の様子について伝えている。また、児童クラブ保護者学年代表と職員との茶話会も実施し、保護者との情報共有も図っている。日常の遊びに加えて、長期休業期間には、簡単な工作やクイズ、タイムトライアルのゲーム等、様々な遊びに挑戦する「チャレンジタイム」を毎日設定し、遊びの充実にも取り組んでいる。学校との連携もよく図られている。	18/18

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>今年度、児童健全育成事業として、毎月1回工作タイムを設け、ものづくりを通し子どもたちの「情操の豊かな、そして健やかな心」の育成に取り組まれました。また、毎月3回「お手玉・けん玉検定日」を設定し継続する事で、徐々に子どもたち自ら次回の検定日までに行えるようにと、日々練習に励む姿が見られました。「クリーン作戦」では、近隣施設の方や地域民生委員等にご協力いただき、共に児童館周辺のごみ拾い活動を行いました。年4回行いましたが、回数を重ねる毎に子どもたちは細かなところに落ちているゴミにも気づき、美化に対する意識・清掃活動に対する理解を深められたと思います。さらに「のらくらぶ」では、地域の方のお力と畑をお借りし、種まきから収穫と、野菜作りを通した自然体験を大事にしました。</p> <p>子育て家庭支援事業では、転出入者の多い地域ということもあり、子育て世代の親が孤立しないようにと乳幼児親子の交流の場を設けました。今年度新たに助産師と近隣の児童発達支援センターの地域相談委員に来ていただき、子どもの発達に対する不安や悩みを打ち明ける場として「ママ・カフェ」を開催しました。</p> <p>地域交流推進事業では、子育て支援クラブ「あゆたん」、隣接する老人福祉センターと共催し、伝統行事の「餅花づくり」を開催しました。子どもたちは、杵と臼でお餅をつくという貴重な体験をし、多世代交流を図りました。また、老人福祉センターの利用者と昔遊びや卓球、囲碁・将棋での交流も行い、日常のマナーや習慣を学び、良き交流会となっています。</p> <p>児童クラブ事業では、子どもたちが第二の家として過ごせるよう常に目配り、気配りをし、安心・安全に努めました。児童クラブの子どもたちは主体的にダンスチームを結成、日々練習に励み近隣施設や町内会のお祭り等でダンスを披露し、地域の中で活動ができました。この一年、事故やトラブルもなく無事に運営できたと思います。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>転出入や子育て世代が多いという地域特性を踏まえ、子育て家庭に寄り添う「時と絆」づくりを目指した運営を行っている。地域の子育て情報が気軽に入手できるよう子育て情報コーナーを設置するとともに、「ウェルカムおおのだ」を実施し、お茶を飲みながら地域や子育てについて情報交換する場を設けている。ランチタイムの場である「たためーぜ」は、乳幼児親子の交流の場となっており、利用者も多い。平成30年度は、新たに「ママカフェ」を開催し、隣接する施設の相談員や母子クリニックの助産師に子育てや発達に関する悩み等を相談できる場を設けるなど、子育て家庭支援に積極的に取り組んでおり、評価できる。</p> <p>隣接する老人福祉センターや民生委員に呼びかけて子どもたちと一緒にごみ拾いを行う「クリーン作戦」活動は、子どもたちと地域住民との世代間交流の機会になるとともに、地域の一員であるという自覚を子どもたちに育てることもつながっている。また、登米市増淵地区での自然体験活動や畑での農業体験活動など、普段は経験できない活動も提供しており、多様なプログラムを通して子どもを健全に育成する取組みを行っている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室